

第2章

公立図書館における電子図書館化 に関する事例

秋田県立図書館における電子図書館の構築

1 はじめに

公共図書館におけるITの導入は、主に所蔵資料の提供システムを中心として行われてきたが、近年、インターネット等の普及により図書館自らが情報や資料を加工して発信する電子図書館的なサービスを可能とする技術基盤が成立された。

秋田県立図書館においても平成7年度から所蔵資料のデジタル化事業を始め、平成9年度から11年度までは文部省（当時）から委嘱を受けた社会教育施設情報化活性化事業、平成12年度からは地元新聞の記事索引、レファレンスデータベースの作成を実施した。事業の特徴として地域の潜在的な資料を所蔵の有無に拘わらず広く収集し、さらにボランティアも参加していることが挙げられる。その意味で、電子図書館の構築は図書館に新たな役割を与える可能性を秘めている。（資料1）

2 所蔵資料の電子化

(1) 電子化するにあたって

当館には明治期を中心として多数の古典籍資料が所蔵されており、それらの資料の利用度を勘案し、電子化事業を進めている。現時点で、約7万コマの画像ファイルを作成した。画像作成時には、将来のネットインフラの進展に対応するため、マイクロフィルムと4×5フィルムを基本媒体として、100Kから数十Mの異なるファイルサイズを同時に作成している。これらは、資料への再度のアクセスを将来的にも少なくするため必要な処置である。

また、資料の重要度によって撮影方法を変え、コストパフォーマンスも考慮した。

(2) 大型絵図の電子化

絵図の電子化にあたっては、新しい画像提供技術を委託メーカーと共に導入した当館で所蔵する江戸期の国絵図で最大の物は、長さ12mから幅6mのサイズがあり、通常の方法での電子化的な提供は困難である。そこで、MRSIDと呼ばれる新画像フォーマットを利用し、高解像度、高圧縮のファイルを作成した。この絵図は電子化した段階では20Gのファイルサイズであるが、

これをMRSIDファイルとして500Mに圧縮し、高解像度で閲覧が可能となっている。その他にGIGAVIEWによる高解像度高速提供ファイルも併せて作成している。

(3) 画像DBとリンクの作成

電子化された多数の画像ファイルは適切なインターフェイスがなければ、利用しにくい。そこでオラクルベースのDBに画像データと索引データを加えて検索システムを構築している。

さらに画像ファイルにはサムネイルを作成し、その一覧を表示し画像を選択表示できるように構成した。

3 地域資料の電子化

図書館内に所蔵されている資料に限らず、地域内には数多くの地域資料が存在する。

その中で民話音声の収集を図った。秋田県内の語り部11名に協力して頂き、県立図書館内でデジタル録音を行った。1話5分程度を110話のREALMEDIAにより、ホームページから提供している。このページでは音声だけではなく、あらすじや解説、ことばの説明、関連する図書館資料の紹介等に加え、より多角的な情報の提供を試みている。他に県内の祭りを動画データとして作成し、提供している。

(資料2)

これらのデータはCD-ROMとしても作成し、関係各機関に送付しており、小中学校からの学習資料としての活用事例も報告されている。

また、秋田県内の社会教育施設と連携し、各機関の所蔵資料の電子化も行っている。協力施設は、公文書館、博物館、大学、教育委員会等となっており、通常の図書館資料に限らず、様々な地域資料の電子化を実施している。

4 地域データベースの開発

電子図書館で提供される情報には、歴史資料に加え、地域に密着した生活情報の提供が不可欠な要素である。そこで平成12年度からレファレンスデータと新聞記事索引データの作成を開始した。

新聞記事索引は、地元魁新聞のタイトルを入力して検索可能としたもので、既に平成成分については、ホームページ上で公開し

ているが、現在昭和分の遡及入力を行っている。

レファレンスデータの作成にあたっては、担当職員の机上端末から入力可能なインターフェイスを自館開発し、毎日の業務の中でデータが蓄積されていく工夫をしている。これらの蓄積データを利用して、平成14年からレファレンスデータベースにして、ホームページで公開している。

(資料3)

5 リンク集の作成

公共図書館における情報提供として、特定テーマに沿ったリンク集の存在は、重要な情報源となる。秋田県立図書館では、地域のリンク集を提供するとともに、総合的な学習の時間を支援するための情報リンク集を作成、提供している。県内各小中学校の研究紀要を基にして学習キーワードを抽出し、それに関係するホームページ約3000カ所のリンク集を作成した。学校での公共図書館の有効活用を進めるために公共図書館利用マニュアルも作成し、併せてホームページ上で提供している。(資料4)

6 情報ボランティアの育成

図書館ボランティアに対しても、ホームページ作成研修を継続的に実施している。

県立図書館ホームページ内に、ボランティアのページを設け、ボランティア活動の状況を発信している。ボランティアの中には高齢者の方々も多く、このような活動は当初、難しい面もあると考えられたが、実際にはボランティアの学習意欲が強く、また数度に渡る研修を行ったため、現在は自立した活動となった。今後も継続して研修を行い、さらにIT能力を高めながら、情報ボランティアとして育成していきたい。また前述した民話のデジタル化についても、民話ボランティアと図書館情報ボランティアに作業活動を移行していくことも試行している。

B to Bつまりボランティアからボランティアという間に図書館の技術と機能を使ってもらうという考え方によるものである。

7 おわりに

今後は、このような電子図書館の構築をトータルでマネジメントすることが、図書館

員にとって必要な能力となる。電子図書館の技術的な面を理解し、予算要望を始めとして関係業者との交渉、従来の図書館技術の応用、地域との連絡調整等、これら一連の作業を調整実施する能力を持つデジタルライブラリアンの育成が急務である。

秋田県立図書館ホームページ

秋田県立図書館ホームページ

更新履歴 last updated 2003-04-30

- [NEW! 秋田県図書館協会報掲載中](#)
- [NEW! 閲覧室資料展示の紹介\(毎月開催\)](#)
- [NEW! 調べ学習のページ\(利用マニュアル、リンク集\)](#)
- [NEW! ビジネス支援資料 \(リンク集、冊子リスト\)](#)
- [NEW! 秋田県専門情報機関案内](#)
- [NEW! 平成15年度司書及び司書補講習実施大学一覧](#)
- [当館HPがグットサイト賞受賞](#)
- [新着郷土資料の紹介](#)
- [秋田県内の民話が聞けます。](#)
- [菅江真澄遊覧記のカラー版](#)
- [入館300万人達成](#)

所蔵資料検索 <small>当館の資料63万冊検索可能</small>	新聞記事索引検索 <small>千成以降の魁新聞タイトル検索可能</small>	<small>NEW!</small> レファレンス検索 <small>当館の調査回答事項の検索可能</small>
お知らせ、案内等 <small>ニュース・開館日・行事・案内</small>	県立図書館の概要 <small>当館の沿革や地図など</small>	デジタルライブラリー <small>電子化資料多数掲載中</small>
秋田県関係行政資料一覧 <small>当館で収集した行政資料</small>	購入逐次刊行物一覧 <small>購入雑誌、新聞の一覧</small>	新着郷土資料紹介 <small>県内を巡回された本の紹介</small>
県図書館協会HP <small>県内図書館図書館の情報</small>	秋田県関係リンク集 <small>県内機関や企業HPリンク集</small>	ボランティアのページ <small>図書館ボランティアが作成</small>

<http://www.apl.pref.akita.jp/>

Minwa Isii Zenzo

秋田の民話

語り部5
いしい ぜんぞう
石井 善三
(秋田市)



お話しリスト

1. 古屋の漏り
2. ねずみのずもう
3. 狐の嫁入り
4. 若返り餅首
5. ひとつぶの豆こ
6. 山の神と海の神
7. 長屋山物語
8. 釜流れ川
9. 荒れる田植え
10. 木仏の長者
11. 解読クオレオの

[秋田県の民話リストへ](#)

[各地域のページへ](#)

[ホームへ](#)

1. 古屋（ふるや）の漏（も）り

原話者	秋田県山本郡琴丘町上岩川 工藤 セツ(大正3年生)
種 類	昔話(本格昔話となぜ話の複合形式)
分 類	日本昔話大成 33B AT177
録音日時	平成11年2月2日



はなしっこ、すっか？

あらすじ---

雨の降(ふる)る夜、爺婆(いしば)の家に、虎狼(とらろう)と馬泥棒(うまどろぼう)が恋(しの)ひ込(こ)む。爺と婆は、虎狼よりも「ふるやのもり」が怖(こわ)しと話(はな)す。虎狼は、自分たちよりも怖(こわ)いものかいると思(おも)い、逃(に)げ出す。馬泥棒は、それを悪(わる)だと思(おも)い、飛(と)び乗(の)る。虎狼が標(め)り落(お)すと、古井戸(ふるいど)に落ち(お)ちる。猿(さる)が尾(お)を古井戸(ふるいど)に差(さ)し入(い)れると、馬泥棒はそれ(それ)に捕(つか)まる。猿(さる)は引(ひ)っ張(ひ)っばって、尾(お)を切(き)ってしまう。それで猿(さる)の尾(お)は短(みじか)くなった。

豆 事 典

井戸 生活に使う水を得るため、掘り抜き井戸は地中を掘り下げて水を汲み上げる。全国的な風習として、井戸には水神が祀られる。また、他界に遷る道筋とも考えられ、盆の前には先祖が他界から帰ってくるために掃除をして、子供が生まれると井戸神に報告して挨拶させる。(『日本の生活道具百科2 住まう道具』河出書房新社より)

◆お話を本で読む◆ …in 秋田県立図書館…

*日本の昔話9「秋田むかし」第一集 古屋のもり
／今村義孝編／未来社／6349

*日本の民話10「秋田の民話」古屋のもり

<http://www.apl.pref.akita.jp/apic/Isii.html>

REF_DB 検索画面

レファレンスデータベース(試験運用版)

検索開始	条件クリア		
質問事項に	<input type="text"/>	(全角)を含む	and
質問事項に	<input type="text"/>	(全角)を含む	and
質問事項に	<input type="text"/>	(全角)を含む	

一度に表示させる件数 10件

検索開始	条件クリア
------	-------

http://www.apl.pref.akita.jp/ref_db/start.php

調べ学習（総合的な学習）に役立つリンク集

[調べ学習のページへ戻る](#) [リンク集の使い方を聞く](#)

調べ学習(総合的な学習)に役立つリンク集

自然	秋田の土地	動物	植物	環境問題	IT・サイクリ
動物一般	魚(目玉)	魚(秋田)	魚(外国)	鳥類	鳥(動物)
環境	水環境/水質	環境	エコロジー	生態系	農業
施設・団体	日本文化	秋田の文化	外国文化	文化一般	
歴史	秋田の先人	伝統工芸	伝承文化	遊び	祭り
メディア	文庫	図	遊学旅行	その他	

リンク集の使い方

- 上のフレームの中で、自分の調べたい分野をクリックしてください。
- 上のフレームが、その分野に含まれるキーワードの一覧に変わります。
- さらにそのキーワードの中で調べたいものをクリックしてください。
- 下のフレーム(このフレーム)に、キーワードに関連するリンク先が表示されます。
- 下のフレーム内のリンク先の名前をクリックして、目的のサイトをご覧ください。

このリンク集について

このリンク集は、総合的な学習の時間などで、子どもたちが調べ学習をするときの一助となることを目的に作られています。

リンク集を作るにあたって、平成12・13年度の秋田市と南秋田郡の小中学校の研究紀要を参考にさせていただきました。研究紀要の中から、総合的な学習に関係すると思われる語句を抽出し、各分野のキーワードとしています。

ページの表示を速くするため、テキスト表示のみとし、リンク先のバナー等は使用しておりません。

国・都道府県・市町村などの公的機関のサイトには、原則として許可を求めずリンクさせていたいています。

企業・団体の個人の情報には、メールでリンクの許可を求めようとしていますが、メールアドレス不明などの理由で、お断りせざるリンクしている場合もあります。不都合がある場合には、変更・削除いたしますので、[メールにてご連絡ください](#)。

このリンク集の内容は、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

著作権になりますが、こころよくリンクを許可して下さった皆様にご挨拶申し上げます。

リンク集制作担当

http://www.apl.pref.akita.jp/sg/sg_link/sg_link_flame.html

江別市情報図書館（北海道）における情報リテラシー教育

図書館におけるパソコン教室の試み

1 はじめに

技術（道具）が進歩しても、最初のうちはその上で使用するコンテンツが不足しがちという状況を、コンピュータを含めた新しい技術開発の歴史の中に見ることができる。そして、一部のものは無事にコンテンツが増え、デファクトスタンダードとなり生き延びる。他のものは静かに消えて行く。

電子図書という存在はコンピュータの普及に伴って出現したものであるが、実際に利用可能な道具が貧弱であったと思われる。図書館や自宅に置いてあるパソコンの上で電子図書を見ることは今でもできるが、文庫本のような可搬性には敵わず、この点だけでも電子図書というものには確実な将来性を認めることはできなかった。

しかし、最近の可搬性に関わる技術進歩は目覚ましく、「CPU 組み込みの液晶ディスプレイ」、「バーチャルキーボード」などが視野に入るとともに、公共の場における無線ネットワークが増加しつつある今、個人が気軽に利用し得る電子図書がにわかに現実味を帯びてきたように思える。

江別市情報図書館では、電子図書館を目指しているとは言えないまでも、電子図書の活用につながり得る利用者教育を行ってきている。ここでは、江別市情報図書館が 14 年間に渡って開催してきた「パソコン教室」について述べ、その問題点、将来への方向性について検討する。

2 コンピュータ教室の一場面

パソコン教室では毎回様々な場面を見ることができ、様々な年齢層、男女の別、何でも自分でやろうとする人、すぐに講師に助けを求める人、マニュアルを読んで納得しなければ次に進めない人、勘に頼り二進も三進も行かなくなる人。大変なのは講師である。二度と同じような受講者の顔触れは拝めないが、受講者に伝えるべきことは決めてあり、定められた時間、回数（2 時間×6 回）の中でこなさなければならない。し

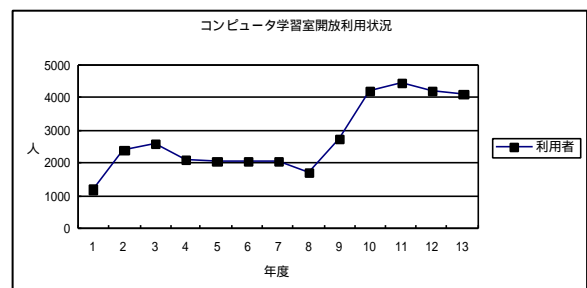
かし、コースの最初の日にはお互いにぎこちない挨拶をしていても、次第に少しは相手の気心も知れ、相手に応じた適切な教え方も何とかできるようになる。そして最後の 6 回目を終える時には、受講生のパソコン生活が順調に進むよう心から祈りたくなる。何といっても受講生は、パソコンという未知の世界に挑戦してきた勇氣ある人たちであり、講師やパソコン熟練者がかつて辿ってきた道を新たに辿り始めた人たちであるから。

3 江別市情報図書館とコンピュータ教室

図書館が開館して 14 年になるが、「図書館」の前に「情報」という言葉があることによって、時々注目されたり不審がられたりすることがある。問い合わせの内容では「特別な図書館ですか？ 普通の本は置いていないのですか？」というものが多い。実際に情報関連の図書を、比較的多く用意しているという自負はあるが。

なぜ図書館にパソコン教室があるのか、情報という名前がついているのかということ、昭和 63 年頃の計画段階において当時の市長をはじめとする関係者が「これからは図書館のコンピュータ管理はもちろんのこと、パソコン利用教育、コンピュータを利用した市民への情報提供が重要である」と考えたためである。教室の目的もコンピュータ利用教育から情報利用教育へ変わるとともに、市民への情報提供も専用システムによるごく限られた範囲への提供から、インターネット利用による広範囲への情報提供に変わってきた。

コンピュータ教室のパソコンは、現時点において 3 世代目にあたるが、パソコン教室受講生の利用、教室がない時は「開放時間帯」を利用する来館者で大変賑わっている。

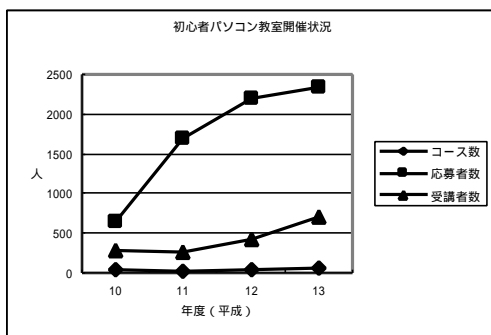


・図書館主催教室

当初から「初心者パソコン教室」、「ワープロ入門」、「表計算教室」を開催してきたが、初心者パソコン教室は BASIC 言語を教えるという、今から考えると初心者にとっては高度な内容であった。平成 10 年度からは教室内容を再構築し、文字入力からワープロ、表計算に触れ、最終的にインターネット検索につながるものとした。それと同時に受講希望者が増え、平均すると受講者数の 4 倍程度の倍率となった。

初心者パソコン教室は 2 時間 / 回を 6 回開催するというもので、夜間コースを含めると 1 ヶ月における開催可能コースは 5 回である。

受講者の傾向としては、午前・午後のコースは女性、熟年層が多く、夜間コースは社会人が目立つというものである。次のグラフは、インターネットを取り入れた教室に変更した平成 10 年度以降の受講者数等の推移である。



・ボランティア団体主催教室

コンピュータ教育を館の方針の一つにしていたが、開館当初は職員にはそのノウハウが少なかったため、市内で活躍していたパソコン愛好会に支援を依頼した。その後、その団体主催のパソコン教室や独自の活動が、図書館の特徴の一つを形作ってきたとも言える。

ボランティア団体主催の教室の特徴は、フットワークが軽く、その時々話題に対応した教室を開くことが可能、ということである。構成メンバーの得意分野があり、それだけ多彩な教室開催の可能性を持っている。「デジカメ入門」などの一般的なものから、「ウィルス対策」という少し凝ったものまで、受講希望者が殺到するものから比較的静かな教室まで多くの教室を開催している。

4 IT 教室との関わり

平成 13 年度からの IT 教室は、江別市に新たな状況をもたらした。公民館 3 ヶ所における 20 人教室と図書館における新たな 20 人教室を確保するためのパソコン 84 台の導入である。IT 教室の内容が確定するまで少しの混乱があったが、図書館においては最終的に今までの初心者パソコン教室に e-mail の方法を加えるだけで済んだ。結果として図書館ではこれまでの 10 人教室、別の部屋における新たな 20 人教室を平行して開催することができるようになった。同じ時間帯で二つの教室を開催していることも多々あった。

IT 教室は情報図書館に、「今までの手法・方針は正しかった」という自信を与えたように思う。さらに他の公民館における IT 教室開催に伴い、図書館での高倍率がかなり解消されることになったのは、応募者のためには嬉しい限りであった。

5 教室終了後のアフターサポート

パソコン教室を終了した人から、今後の進むべき方向などを相談されることがある。目的、習熟度、意気込みなど人によって違い、一人ひとりをサポートすることは不可能であるため、場合によっては前述のパソコンボランティア団体を紹介している。

パソコンに習熟できるかどうかは、本人の努力によることはもちろんであるが、環境にも左右される。この点、ボランティア団体という環境が後ろに控えていてくれるのは、図書館にとって心強いものがある。

6 パソコン教室の課題と将来

初心者パソコン教室講師を担当すると、「パソコンは初心者に厳しい」ということを実感する。受講生の受講状況、感想などに現れる達成感などを観察していると、教室受講者のうち、無事(?)にパソコンやインターネットの世界に入って行けるのは 20% に満たないのではないかと推測される。本市でも公民館における IT 講習会を含め、平成 13 年度では数多くの受講者を受け入れた。しかし、各地における開講状況を見聞きすると、大部分の人にとって「やはりパソコンは敷居が高かった」と感じるだけのもので終わったのではないと思われる。パソコン教室は無駄だから止めようが良い、と言っている訳ではない。無料で一通

りのパソコン体験が気楽にできる教室を、毎月数コース用意しておくことは、生涯学習の観点からも意義のあることと思う。

ただし、コンピュータ社会における目標（現在はインターネットの利用）、利用者から求められている目標、主催者側が設定する目標を一致させるという大切な仕事をこなす必要がある。

近い将来、電子図書の利用がパソコン教室の目標になることは十分考えられる。

7 ボランティア活動の示すもの

一般的に公務員はボランティア団体と付き合いの慣れないのかも知れない。自分たち（公務員）の仕事に立ち入り、混乱をもたらす存在として・・・。

しかし、図書館において活動している点訳ボランティア、音訳ボランティア、おはなし会グループそしてパソコンボランティアを見ていると、決してそうではなく図書館職員の心強い味方であることの方が多い。

ボランティア団体の基本的なスタンスは、自分の好きなことをしながら、人の役に立ちたいというものであるように思える。これらの人たちの人的パワー、知識を生かす環境を整備するのが図書館職員の義務であるとともに喜びでもある。



[シニアの集まり（一番活発なグループ）]

8 終わりに

図書館においてパソコン教室を設置し、実際に受講生を募集、教室を開催しているところは多くないと思われる。当初はパソコンの操作、あるいはBASIC言語を教えるのが目的だったが、今から考えると相当無謀

なことを目指していたものである。コンピュータとは「勉強」の対象であり、BASICプログラムの一つや二つを作ることができるようになって当然と思い、当時はそのことを筆者も含めてほとんどの人は疑いもなかった。そして、現在は教室の内容が「インターネットを利用できるように」と変わってきたことも何ら不思議ではない。将来、市民が新しい形の図書を閲覧できるように、新たな「道具」の使い方を教えるのがパソコン教室の役割になるということも考えられる。

電子図書の発達は、雑誌を含めて図書館の蔵書への依存度を減らし、目的によっては図書館を利用する必要はないと判断する利用者も出てくると思われる。

しかし、図書の貸出・閲覧だけが図書館の機能ではない。電子図書の利用により図書館の様々な面が効率良く運営されるとともに利用者の利便につながる可能性を考えると、図書館としては電子図書への積極的な導入を図って行くべきであろう。

9 近未来の図書館・・・

それほど遠くない将来の江別市情報図書館における一利用者の行動を追ってみる。

- ・ 図書館に入り、まず「読書パネル」を借りる。読書パネルは大きめの雑誌くらいの液晶パネルで、薄い例え2階から落としても壊れることはない。タッチパネルも兼ねていて、小難しいOSから開放され、最近では値段も安くなり街中でも見かける。
- ・ 空いている席に座り、パネルの表示から読みたい新聞や雑誌、図書を選び、読み始める。
- ・ そういえば、最近では電車の棚に雑誌を見かけなくなった。電子図書は真っ先に雑誌会社に採用され、そのため東京と北海道の雑誌発売の時差もなくなったのはありがたい。
- ・ 電子化されていない本を探す時は、図書館のコンピュータシステムと読書パネルが連携していて、パネルに本の位置が表示され、本の前まで案内してくれる。
- ・ 家にも読書パネルがあるから、図書館に来る必要はないのだが、まだまだ昔の本の匂いがするこの雰囲気が好きで図書館に足が向いてしまう。